

2023年12月4日

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

「PRアワードグランプリ 2023」が決定
非流通空き家を借り手の想いで動かす「さかさま不動産」
～逆転の発想で挑戦を応援するまちづくりへ～
株式会社 On-Co が
グランプリ受賞

(公社)日本パブリックリレーションズ協会(理事長:牧口征弘、所在地:東京都港区)はこのほど、「PRアワードグランプリ 2023」審査会を開催し、今年度の「グランプリ」に「非流通空き家を借り手の想いで動かす『さかさま不動産』～逆転の発想で挑戦を応援するまちづくりへ～」(エントリー会社:(株)On-Co、事業主体:(株)On-Co)を選出いたしました。

ほか「ゴールド」2件、「シルバー」に6件、「ブロンズ」に7件、さらに奨励賞として1件を選出しています。

「PRアワードグランプリ」事業は、優れたPR事例を選考・顕彰することで、PRの普及と発展に寄与することを目的に毎年実施しています。今年度は96件のエントリーがありました。

「グランプリ」「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」を受賞した全16件と奨励賞1件の詳細については次頁をご覧ください。

なお、12月13日(水)17時から時事通信ホールにて「PRアワードグランプリ 2023 表彰式/受賞者プレゼンテーション」を開催予定です。

<「PRアワードグランプリ 2023」受賞エントリー> (全 17 件)

<グランプリ> 受賞エントリー (1 件)

- 非流通空き家を借り手の想いで動かす「さかさま不動産」
～逆転の発想で挑戦を応援するまちづくりへ～
エントリー会社：(株)On-Co
事業主体：(株)On-Co

<ゴールド> 受賞エントリー (2 件、エントリー登録順)

- 日本に眠る 5 兆円の敷金をスタートアップの成長資金に変える
「敷金を成長資金に。プロジェクト」
エントリー会社：(株)はずむ
事業主体：(株)日商保
- 守るのは、頭と地球。HOTAMET
エントリー会社：甲子化学工業／猿払村／TBWA HAKUHODO
事業主体：甲子化学工業／猿払村／TBWA HAKUHODO

<シルバー> 受賞エントリー (6 件、エントリー登録順)

- 水族館の水槽を、サステナブルファッションを通じた海洋保全提唱の場に
『サンゴショーウィンドウ』
エントリー会社：(株)博報堂／(株)オズマピーアール
事業主体：(株)海遊館
- 日清食品の「完全メシ」事業
エントリー会社：(株)博報堂
事業主体：日清食品(株)
- 夏、子どもの高さは大人より 7℃も暑い!
グリーン ダ・カ・ラの熱中症対策啓発「こども気温」プロジェクト
エントリー会社：サントリー食品インターナショナル(株) / (株)電通
/ (株)電通 PR コンサルティング
事業主体：サントリー食品インターナショナル(株)
- こどもの朝食欠食・孤食問題をこども食堂と共に解決
「ケロググ 毎日朝ごはんプロジェクト」
エントリー会社：(株)プラップジャパン
事業主体：日本ケロググ(同)

- ジュエリーそのものを見てほしい。
ブランド名を伏せて現れた謎のジュエリーショップ『匿名宝飾店』
エントリー会社：(株)エフ・ディ・シィ・プロダクツ
事業主体：(株)エフ・ディ・シィ・プロダクツ

- うま味調味料「味の素。」統合 PR
～50年もの誤解を乗り越え、食と健康の課題解決へ～
エントリー会社：Edelman Japan(株)
事業主体：味の素(株)

＜ブロンズ＞ 受賞エントリー（7件、エントリー登録順）

- 「全員広報」が叶えた住宅診断マーケットの創出
エントリー会社：(株)さくら事務所
事業主体：(株)さくら事務所

- 気づいていたけど、みんなが諦めていた“子遊び疲労”解消へ。
整体つきキッズパーク「ホグシーランド」
エントリー会社：(株)オズマピーアール
事業主体：ピップ(株)

- 冷凍餃子フライパンチャレンジ
～1つのクレーム投稿から始まった「永久改良」の共創活動～
エントリー会社：(株)本田事務所
事業主体：味の素冷凍食品(株)

- 建築現場の労働災害“0”を目指した「ラジオ体操 第バ」
エントリー会社：モバーシャル(株)／(株)東北新社
事業主体：東急建設(株)

- 「かわいい！」だけだと思ってない？
「飼育員さんだけが知ってる あのペットのウラのカオ」
エントリー会社：(株)博報堂ケトル
事業主体：WWF ジャパン

- 酪農家と子どもを救うソーシャルアクション【土日ミルク】
～給食のない休日は、おうちで牛乳を飲もう～
エントリー会社：(株)オズマピーアール
事業主体：(一社)Jミルク

- 循環型社会の実現に向けて、
地方自治体がメルカリに“まだ使える”粗大ごみ・備品を出品
エントリー会社：(株)メルカリ
事業主体：(株)メルカリ

<奨励賞> 受賞エントリー（1件、エントリー登録順）

- メディア専用デジタルプラットフォーム「PR Relate」活用による
新たな広報の価値づくり
エントリー会社：パナソニック(株)
事業主体：パナソニック(株)デザイン本部 コミュニケーションデザインセンター

<本田 哲也・審査委員長の講評コメント>

コロナ禍の終息を迎えることができた今年は、昨年に引き続きおよそ 100 件のエントリーをいただきました。日本社会におけるパブリックリレーションズへの理解と関心が進み、多様な取り組みが生まれていることの証だと思えます。

審査委員長として、今年は、昨年に引き続き以下の3つの審査にあたっての視座を示させていただきます。

1、「パーパス（社会的存在意義）」はあるか？：社会に向き合った、社会的な意義のある活動になっているか。

2、「自分（たち）らしさ」が感じられるか？：当該企業/ブランドがその活動をするオーセンティシティ（正当性・真正性）があるか。

3、「巻き込む力」は発揮されたか？：多様なステークホルダーを巻き込み、共創が起こるような設計がなされ、活動の持続性につながっているか。

本年は喜ばしいことに、エントリーが実に「粒ぞろい」の印象で、上位受賞の決定には審査委員も悩ましい判断を迫られたと思えます。とくにゴールド以上の3エントリーはどれも評価が高いものでした。そのような中、見事にグランプリに輝いた、株式会社 On-Co の「非流通空き家を借り手の想いで動かす『さかさま不動産』～逆転の発想で挑戦を応援するまちづくりへ～」は、社会課題に見出した斬新な PR 発想が大きく評価され、審査委員の「満場一致」をもってグランプリ選出となりました。

グランプリ受賞プロジェクトのコンセプトでもある「さかさま」は、パブリックリレーションズの本質的な視座のひとつでもあります。世の中に横たわる様々な課題を「さかさま」から捉えることで、新たな景色が広がることがある。まさに、このように社会を捉えることこそ、これからの PR プロフェッショナルに求められる、重要なアプローチだと思います。あらためて受賞された企業・組織団体の皆様に敬意を表し、これからも日本のすべてのパブリックリレーションズの取り組みが素晴らしい成果を生むことを願っています。

<審査委員> (敬称略、50音順)

■審査委員長 (敬称略)

本田 哲也 (株)本田事務所 代表取締役/PRストラテジスト

■審査委員(9名) (敬称略/氏名50音順)

伊東 由理 LINE ヤフー(株)
執行役員 コーポレートコミュニケーション統括本部長

金山 亮 デロイト トーマツ グループ
Clients & Industries / Brand Marketing 執行役員 パートナー

北見 幸一 東京都市大学 都市生活学部/大学院環境情報学研究科 准教授

小林 正史 (株)プラップジャパン 戦略企画部 部長

塚本 幸代 (株)電通 PR コンサルティング 経営企画室 部長

河 昴珍 國學院大學 観光まちづくり学部 准教授

浜田 敬子 ジャーナリスト 元 AERA 編集長

牧 志穂 (株)博報堂 PR 局 プラニング二部 部長 チーフ PR ディレクター

横田 和明 (株)井之上パブリックリレーションズ 執行役員

添付資料 1

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRSJ）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147